

表 5.4.5(3/11) モデル地域の特徴及び今後の課題

N03	有銘湾（東村）	
<p>地域の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄島最大のマングローブが分布。 ・ カヌー等を利用したエコツーリズムが盛ん。 ・ やんばる自然塾等が中心となり、自然と観光の調和の観点からの地域づくりを展開。 ・ 環境協力金制度というシステムを導入し、環境保全活動も実施。 	<p>保全と利用の両立上の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保全と利用の観点から、ルールづくりが必要。 ・ 農地からの赤土等流出、水質汚濁(畜産排水)が課題 	
<p>モデル地域設定にあたっての地域の意見</p> <p>東村役場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 名護市と境目までは、モデル地域に入れたほうがいい。分水嶺にもなっている。 <p>地域の関係者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有銘地区は湾奥に位置しているので漂着ごみがたまりやすい。年に数回程度成人会・子供会が清掃活動を実施している。 	<p>モデル地域の対象エリア</p> <p>位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有銘湾（有津川河口より北側から慶佐次にかけて） ・ モデル地域の範囲は適切である。 <p>課題等</p> <p>当該地域は、豊かな自然の恩恵により自然体験学習等の利用が可能となっているが、その一方で漂着ゴミといった問題があることを地域が認識しており、今後、総合沿岸域管理計画を進める上で適切な場所である。しかしながら、今後の関係者意見によってはモデル地域の設定は柔軟に対応することとする。</p>	
<p>モデル地域の概況</p>		
		
 <p>慶佐次川</p>	 <p>有銘川河口から有銘湾を望む</p>	

表 5.4.5(4/11) モデル地域の特徴及び今後の課題

N04 大井川下流域（今帰仁村）	
地域の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・今帰仁漁協が MPA を設定し、水産資源を管理。 ・大井川河口にはマングローブが存在し、カヤック等の利用有り。 ・ウップマビーチではグラスボート等によるサンゴ観察が盛ん。保全と利用の観点から、ルールづくりが必要。 	保全と利用の両立上の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・今帰仁漁協が MPA を設定し、水産資源を管理。大井川河口にはマングローブが存在し、カヤック等の利用有り。ウップマビーチではグラスボート等によるサンゴ観察が盛ん。保全と利用の観点から、ルールづくりが必要。
モデル地域設定にあたっての地域の意見 今帰仁村役場 <ul style="list-style-type: none"> ・大井川流域は、マングローブがあり、観光業も盛んである。また、村民の浜でもあることから、当該流域をモデル地域とすることが望ましい。 地域の関係者 <ul style="list-style-type: none"> ・大井川からの赤土流出が多く、大雨時に海域が赤くなる。また、大井川河口にヘドロが堆積している。 ・大雨時に流出があり、観光客から沖縄の美しい海を期待していたが赤土で濁りがっかりしたとの感想を聞いている。 	モデル地域の対象エリア 位置 <ul style="list-style-type: none"> ・大井川流域及びその周辺 課題等 当該地域は、赤土流出に対する問題意識は行政、地域住民も認識しており、今後、総合沿岸域管理計画を進める上で適切な場所である。しかしながら、今後の関係者意見によってはモデル地域の設定は柔軟に対応することとする。
モデル地域の概況	
	
 <p>ウップマビーチ</p>	 <p>大井川河口</p>

表 5.4.5(5/11) モデル地域の特徴及び今後の課題

N05 本部町西海岸（本部町）	
地域の特徴	保全と利用の両立上の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・海域ではサンゴの保全再生が行われている。 ・陸域ではNPO法人おきなわグリーンネットワークにより赤土流出対策が行われている。 ・海域では養殖が行われている。 	<p>海域と陸域の繋がりを意識した対策が必要。</p>
モデル地域設定にあたっての地域の意見	モデル地域の対象エリア
<p>本部町役場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大小堀川、満名川河口等候補がいくつかある。 <p>地域の関係者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大小堀川流域の土地改良区では、地主の了解を得た畑を対象に、赤土流出防止としてグリーンベルト（ベチパー）を植栽している。 ・大小堀川河口周辺の干潟は地域住民が潮干狩りしている。拝所もある。 ・砂防ダムは満砂し、機能していない。堆砂を除去すると除去工事の際に赤土が流出するため、除去しない方がよい。 ・渡久地港沖合でマグロ養殖とシャコ貝、瀬底の瀬底大橋袂あたりでモズク養殖を行っている。 ・満名川は中心市街地を流れる河川にふさわしい川にすべき。 ・満名川で赤土流出防止の協議会を立ち上げ、子供たちと赤土堆積調査（上中下流）指標生物調査を実施。寄付金やボランティアにより運営していた。 	<p>位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大小堀川及び満名川河口 ・絞り込みが必要 <p>課題等</p> <p>モデル地域の絞り込みには地域との議論の積み重ねが必要である。</p> <p>また、ほとんどの海岸が港湾区域に属することから、県関係部署との調整も必要である。</p>
モデル地域の概況	